

応答スペクトルに関する地震動予測地図：最大加速度地図データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、応答スペクトルに関する地震動予測地図における、最大加速度地図データを記述するファイル規約を示すものである。最大加速度地図データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

最大加速度地図データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-RESP-MAP-AVR-[地震コード]-[経過年コード]-BA.csv

(1) 年コード

YNNNN の形式で記述する。NNNN は、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。X は2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

地震コードは J-SHIS データ規約集「地震コード規約」を参照のこと。

(3) 経過年コード

経過年コードの説明を表 2-1 に示す。

表 2-1 経過年コード

経過年コード	説明
T50	評価基準日から 50 年

3. データ記述規約

最大加速度地図データは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成される CSV ファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。

データブロックは、最大加速度データを記述するブロックである。各データは“,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%10d	250m メッシュコード
02	T50_P02_BA	%9. 6e	50 年超過確率 2%の最大加速度[cm/s/s]
03	T50_P05_BA	%9. 6e	50 年超過確率 5%の最大加速度[cm/s/s]
04	T50_P10_BA	%9. 6e	50 年超過確率 10%の最大加速度[cm/s/s]
05	T50_P39_BA	%9. 6e	50 年超過確率 39%の最大加速度[cm/s/s]

(1) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例
CODE, T50_P02_BA, T50_P05_BA, T50_P10_BA, T50_P39_BA
3036500633, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00
3036501521, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00
3036501612, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00
3036501621, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00, 0.000000E+00
3622572633, 1.018638E+03, 8.433131E+02, 7.048056E+02, 4.097840E+02
3622572634, 1.018638E+03, 8.433131E+02, 7.048056E+02, 4.097840E+02
3622572643, 1.018638E+03, 8.433131E+02, 7.048056E+02, 4.097840E+02
3622572644, 1.018638E+03, 8.433131E+02, 7.048056E+02, 4.097840E+02
3622572723, 1.018824E+03, 8.435079E+02, 7.049595E+02, 4.095867E+02
3622572724, 1.018824E+03, 8.435079E+02, 7.049595E+02, 4.095867E+02
(以下省略)

ⁱ J-SHIS データ規約集 : <https://www.j-shis.bosai.go.jp/map/JSHIS2/data/DOC/DataFileRule/A-RULES.pdf>

応答スペクトルの地震動予測地図：加速度応答スペクトル地図データ記述ファイル規約

1. 概要

本書は、応答スペクトルの地震動予測地図における、加速度応答スペクトル地図データを記述するファイル規約を示すものである。加速度応答スペクトル地図データは2章～3章で示す規約により作成記述される。

2. ファイル命名規約

加速度応答スペクトル地図データ記述ファイルは以下のファイル名とする。

P-[年コード]-RESP-MAP-AVR-[地震コード]-[経過年コード]-[周期コード].csv
--

(1) 年コード

YNNNNの形式で記述する。NNNNは、評価基準年(西暦)を示す。一つの評価基準年に複数のモデルが存在する場合は、「_MX」を付加する。Xは2以上のモデル識別番号を示す。

(2) 地震コード

地震コードはJ-SHISデータ規約集¹「地震コード規約」を参照のこと。

(3) 経過年コード

経過年コードの説明を表2-1に示す。

表 2-1 経過年コード

経過年コード	説明
T50	評価基準日から50年

(4) 周期コード

周期コードの説明を示す。

表 2-2 周期コード

周期コード	説明
P0010	周期 0.1 秒
P0020	周期 0.2 秒
P0030	周期 0.3 秒
P0050	周期 0.5 秒
P0100	周期 1 秒
P0200	周期 2 秒
P0300	周期 3 秒
P0500	周期 5 秒

3. データ記述規約

加速度応答スペクトル地図データは“#”で始まる複数行のコメントとデータブロックから構成される CSV ファイルとする。“#”で始まるコメント行はファイルの先頭から連続して任意の行数記述することができる。

データブロックは、周期に対応する加速度応答スペクトル地図データを記述するブロックである。各データは“,”で区切られる。ブロック内記述方法を表 3-1 に示す。各データの書式は、C 言語の printf 書式指定子で表す。

表 3-1 データブロック

列番号	列名	書式	説明
01	CODE	%10d	250m メッシュコード
02	T50_P02_SA	%9. 6e	50 年超過確率 2%の加速度応答(減衰定数 5%) [cm/s/s]
03	T50_P05_SA	%9. 6e	50 年超過確率 5%の加速度応答(減衰定数 5%) [cm/s/s]
04	T50_P10_SA	%9. 6e	50 年超過確率 10%の加速度応答 (減衰定数 5%) [cm/s/s]
05	T50_P39_SA	%9. 6e	50 年超過確率 39%の加速度応答 (減衰定数 5%) [cm/s/s]

(1) データ記述例

データ記述例を表 3-2 に示す。

表 3-2 データ記述例

データ記述例
CODE, T50_P02_SA, T50_P05_SA, T50_P10_SA, T50_P39_SA 3036500633, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00 3036501521, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00 3036501612, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00 3036501621, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00, 0. 000000E+00 3622572633, 1. 453244E+03, 1. 174013E+03, 9. 772345E+02, 6. 123043E+02 3622572634, 1. 453244E+03, 1. 174013E+03, 9. 772345E+02, 6. 123043E+02 3622572643, 1. 453244E+03, 1. 174013E+03, 9. 772345E+02, 6. 123043E+02 3622572644, 1. 453244E+03, 1. 174013E+03, 9. 772345E+02, 6. 123043E+02 3622572723, 1. 460444E+03, 1. 179172E+03, 9. 811171E+02, 6. 141131E+02 3622572724, 1. 460444E+03, 1. 179172E+03, 9. 811171E+02, 6. 141131E+02 (以下省略)

ⁱ J-SHIS データ規約集 : <https://www.j-shis.bosai.go.jp/map/JSHIS2/data/DOC/DataFileRule/A-RULES.pdf>